

# 実りある授業のために 中学校音楽

〔H25. 秋〕 島根県教育委員会

## ♪ 1 学習評価について ～その2～

学習評価については、『実りある授業のために H24. 秋』で「観点イ及び観点エの趣旨について！」「思考・判断・表現に係る評価規準の設定について！」「評価場面等の精選！」の3点について触れています。

本稿では、「評価の観点と学習内容との関係」についてご確認ください。

### ♪ 評価の観点と学習内容との関係

#### A 表現（歌唱・器楽・創作）

##### 音楽表現の技能

この観点では、「A表現（歌唱・器楽・創作）」の活動を通して、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている学習状況を評価する。

特に、指導のねらいや学習活動の展開等に即して、観点イ「音楽表現の創意工夫」に係わる学力と関連させながら、音楽表現をするための基礎的な技能を育み、「A表現（歌唱・器楽・創作）」の活動を通して表現している学習状況を把握していくようにする。

#### B 鑑賞

##### 鑑賞の能力

この観点では、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴き、さらにそのことを言葉などで人に伝えるように指導し、その学習状況を評価する。

従前の評価の観点である「音楽的な感受や表現の工夫」のうち、「音楽的な感受」で見取っていた学力も、この観点に含めて評価する。

##### 音楽表現の創意工夫

この観点では、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら音楽表現を工夫している学習状況を評価する。その際、どのように表すかについて、思いや意図をもつように指導することも大切になる。この観点は、旧学習指導要領の「音楽的な感受や表現の工夫」の観点を踏襲している。

学習指導要領では、どのように音楽表現をするかの思考・判断の学習場面において、〔共通事項〕を手掛かりとした学習を展開していくことが求められている。よって、本観点では、〈音楽的な感受〉に基づきながら創意工夫して「このように歌いたい、楽器を演奏したい、音楽をつくりたい」といった思いや意図を実現しようと工夫している学習状況を把握していくようにする。

##### 〈音楽的な感受〉（〔共通事項〕の事項ア）

音楽を形づくっている要素を知覚し、  
それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること。

##### 音楽への関心・意欲・態度

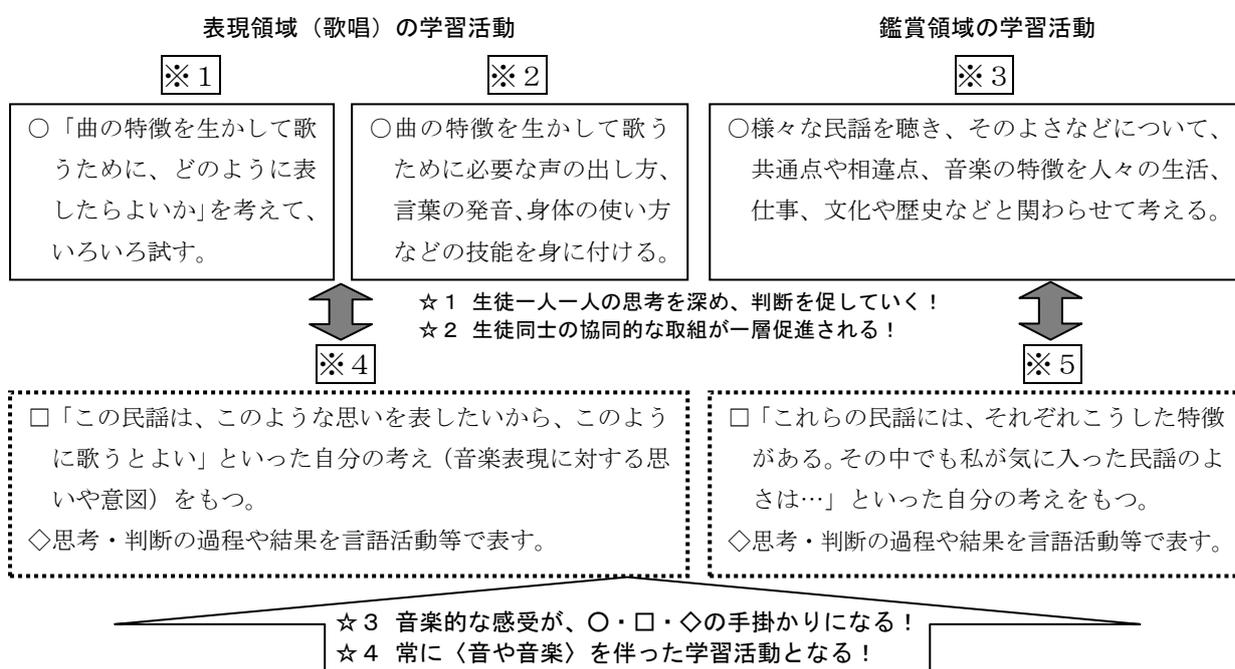
この観点では、音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組むように指導したことについて、その学習状況を評価する。

例えば、「三味線の音色や奏法、長唄の特徴に関心を持ち、それらを生かして表現する活動に自ら取り組もうとしている。」といったように、学習の対象を明確にし、それに対する関心と主体的な取り組みの学習状況を把握していくようにする。

- ・従前の観点イで示されていた〈音楽的な感受〉という表記はないが、このことを評価しないということではない。
- ・〈音楽的な感受〉については、観点イ「音楽表現の創意工夫（A表現）」と観点エ「鑑賞の能力（B鑑賞）」のそれぞれに位置付けられ、両領域の学習を支えたり、関連を図ったりする上でも鍵となる。（前頁の図を参照）
- ・「A表現」の学習では、前頁の図中の◇で示したように、「音楽表現の創意工夫」に係る学力と「音楽表現の技能」に係る学力を相互に関連させながら伸ばしていくようにする。

## ♪ 2 これからの授業づくりで大切にしたいこと

### 郷土の民謡の特徴を生かして歌う（表現領域・歌唱）とともに、郷土や我が国の諸地域、外国の様々な民謡の共通点や相違点、それぞれのよさなどを捉えて聴く（鑑賞領域）学習活動例



※6

#### 〈音楽的な感受〉〔共通事項〕ア

◆表現と鑑賞に共通して、例えば、民謡の様々な声の「音色」、拍節的・拍節的でない「リズム」、「旋律」における節回し、コブシなどを知覚し、それらが生み出す雰囲気などを感受することを、全ての活動の支えとなるように位置付ける。

- ・表現領域（歌唱）の※1、※2と※4（の□印）、鑑賞領域の※3と※5（の□印）のそれぞれを一体的に見ると、学習過程における生徒の姿が想定される。
- ・前述の学習活動では、「思考」する力や、自分の考えを絞り込んで明確化し、自ら「判断」する力の育成が意図されている。このことと関連して、※4、※5（の◇印）の「思考・判断の過程を言語活動等で表す」活動を適切に組み込むことによって、生徒の思考を深め、判断を促していく（☆1）とともに、考えを伝え合うなどの生徒同士の協同的な学びが一層充実したものになる（☆2）。
- ・※1～※5の全ての学習活動の手掛かりになる（☆3）のが、※6の〈音楽的な感受〉である。
- ・ここに示した学習活動例では、音色、リズム、旋律を知覚・感受しながら、常に〈音や音楽〉を伴った学習活動となる（☆4）ようにして、民謡を歌ったり鑑賞したりする学習を進めていくことが大切になる。